第１２７回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２７年１２月８日提出）

１．題　目：平成２７年度長崎大学メンタルヘルス講演会
「障害のある学生への差別禁止と合理的配慮とは」

２．日　時：　平成２７年１１月３０日（月）１６：００～１７：３０

３．場　所：長崎大学　グローバル教育・学生支援棟　４階
文教スカイホール

４．主　催：長崎大学学生相談支援等協議会
共催：長崎大学保健・医療推進センター、障がい学生支援室

５．対　象：全教職員及び学外者

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
教員が、教育活動を行うに当たって、学生の精神的な状況を把握することも大切である。本講演を拝聴していただくことで、教員が障がいのある学生の精神面を知ることはもちろん、教員個人や組織として障がいによって困難を経験する学生への対策を行うことに繋がることが期待できる。各教員の教育活動において、学生のメンタルヘルスに関して日頃から意識し、配慮していただくことが講演の主旨と意義である。また職員等を講演会に参加させることで、メンタルヘルスに関する教職員全体の認識の向上にも繋がるものである。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）

構成：講演　講演－90 分（質疑応答含む）

[題目・担当講師]

題　　目：「障害のある学生への差別禁止と合理的配慮とは」

担当講師：東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野

近藤　武夫　准教授

９．参加者：７４名

（内訳）

所　　属	人　　数
教育学部	3
医歯薬学総合研究科	4
工学部	１６
水産・環境科学総合研究科	3
病院	1
保健・医療推進センター	１１
大学イノベーションセンター	1
国際教育リエゾン機構	2
障がい学生支援室	3
総務部	6
学生支援部	１１
その他（学外者）	１３
計	７４

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）

平成 27 年度メンタルヘルス講演会　アンケート集計

1. 対象および回収率

	長大教職員		外部		計	
参加者数	61		13		74	
回収数　　回収率	47	77%	6	46%	53	72%
教育職員	24					
事務職員	13					
技術職員	10					
学生その他	0					

2. 昨年のメンタルヘルス講演会に参加されましたか

	男	%	女	%	計	%
参加した	11	29%	5	33%	16	30%
しなかった	23	61%	9	60%	32	60%
未記入	4	11%	1	7%	5	9%
計	38	100%	15	100%	53	100%

3. 参加動機について(複数回答可)

	男	%	女	%	計	%
自分自身や家族のため	6	16%	1	7%	7	13%
仕事上必要なので	31	82%	12	80%	43	81%
メンタルヘルスに関心があるから	12	32%	7	47%	19	36%
社会的関心が高まっているから	7	18%	2	13%	9	17%
その他	0	0%	0	0%	0	0%
計	56		22		78	
実数	38		15		53	

4．講演会をどのようにして知りましたか(複数回答可）

	男	%	女	%	計	%
ポスター	5	13%	4	27%	9	17%
Eメール	32	84%	4	27%	36	68%
友人から誘われて	1	3%	1	7%	2	4%
長崎大学ホームページ	2	5%	2	13%	4	8%
担当者からのすすめ	3	8%	1	7%	4	8%
上司からのすすめ	1	3%	0	0%	1	2%
部局通知	6	16%	7	47%	13	25%
小・中・高校からの通知	0	0%	0	0%	0	0%
その他	2	5%	0	0%	2	4%
計	52		19		71	
実数	38		15		53	

5．講演の内容は期待にあっていましたか

	男	%	女	%	計	%
期待した内容でとても良かった	23	61%	12	80%	35	66%
まあまあ良かった	11	29%	2	13%	13	25%
期待にそわなかった	3	8%	1	7%	4	8%
その他	1	3%	0	0%	1	2%
未記入	0	0%	0	0%	0	0%
計	38	100%	15	100%	53	100%

6．今後メンタルヘルスに関する講演でどのような内容を希望しますか？

・精神疾患（うつ病や自閉症）に対する対応。具体例
・法律施行（’16.4）後の事例紹介
・カリキュラム中の配慮
・再度、もっと時間を作って近藤先生の話を
・障がい学生の就労支援
・制度的なものだけでなく、実際のITを活用した実演なども見せてほしい。
（体制作りにはどのような小道具（PC系）があり、利用できるかを把握し、そのスタッフも必要であろう）
・過重労働に関する話題

7. 感想・意見等を自由にお書きください

・講演の内容は、タイトルにそった物にしてほしい。
・時間厳守でお願いします。
・今回はメンタルヘルスとはかなり違っていた。
・新たな法律が施行されることはわかりました。（大学運営に大きく関与）⇒かなり大変
・法律的な話題が多かったので、もう少し実践されている内容が紹介されていればよりよかったと思う。
　しかしまだまだで、障害者に対するバリアや差別が多く、社会がもっと柔軟になる必要があるのだと
　思った。技術（システム）導入がとても重要。また、可能性を信じることがとても大事だと思った。
・むずかしい話ではなく、とても具体的で、イメージしやすく実践につながりやすくて良かった。
・わかりやすくお話をして頂けて良かったです。
・合理的配慮について、改めて考えさせられた。また、改めて米国（海外）は進んでいるなあという印象を
　受けました。「失敗する機会を奪わない」というキャッチフレーズは勉強になりました。本日は貴重な機会
　をありがとうございました。
・詳しく。熱意が伝わった。
・もっと時間をとってほしい。
・事例を多く取り入れての説明会であったので大変勉強になりました。
・タイトルが「メンタルヘルス」であると、内容周知が理解しづらい。勘違いするかも？ですね。
・いろんな事例をうかがい、よい勉強になりました。
・配布資料が少し小さい字で見にくかった。
・支援にはITの利用が必要だと再認識がしました。（人だけでは限界あり）
・良い機会をありがとうございました。

（２） 総　括（１０（１）を踏まえＦＤ全体の総括を記述する）

　本講演会は、本学の教職員が障がいを抱えた学生への対応を行う上で組織や個人としてどのような意識をもってどのように対応していくべきか、ということを考える機会として開催した。参加者からの評価については、回答者（７２％）のうち、「期待した内容でとても良かった」（６６％）と「まあまあ良かった」（２５％）を合わせると、回答者の９１％が「よかった」という結果であった。

しかしながら一方では、「今回はメンタルヘルスとはかなり違っていた。」や「タイトルが「メンタルヘルス」であると、内容周知が理解しずらく、勘違いする。」という意見もあり、演題や副題名についてはより参加者に理解しやすい内容にする必要があったと考える。

さらに、本学では平成２８年度に障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領の制定に向けての検討が進められているが、今回、障害者に対する専門家を招へい

し、多くの実例を交えての発表を行っていただいたことは、今後の検討において大変参考となり、かつ有意義な講演会であった。

１１．実施代表者の連絡先

部　局：保健・医療推進センター　カウンセリング部門長
職　名：准教授　　氏　名：林田　雅希
e-mail：hmsk@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２２１２

１２．申請者の連絡先

部　局：学生支援部学生支援課
職　名：班長　　氏　名：古賀　栄次
e-mail：eiji-k@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：２１０２